

# 園長だより

関東地方は梅雨入り、通勤、通学では不便な思いをします。主婦（夫）泣かせの梅雨とも言われ洗濯物、室内のじめじめと生活では心身共にすっきりといかないものです。

今年の梅雨入りは6月7日頃、梅雨明けは7月6日頃で梅雨の期間はほぼ1か月、平年は7月20日ごろとも言われているだけに、近年の気象状況の変化を危惧しないわけにはいきません。多くの雨量も困りものですが空梅雨でも大好きな、水、プール遊びに影響が出ます。ほどほどの恵みの雨にあることを願っています。

## 子どもの好奇心、動き出す源

私の毎日の日課は園庭の水まき、南風、北風と風の通り道、園庭の乾燥が進むと砂が瞬く間に飛び散ります。大人ではさほど感じない風（砂ぼこり）でも子ども達の目の高さで風にあたってみると砂ぼこりは予想以上に顔に向かってくる。保育園の立地でしょうか、科学的根拠はありませんが低い層から巻き込む風もあります。

そんなわけで、水まきが日課になっているのです。

毎日の日課、子ども達は毎日、見ていると言うことになります。子ども達の好奇心をそそるものに水はベスト3にランクされることでしょう。水は子ども達の（生活、遊び）

に欠かすことのできないものです。

こんなことがありました。4月のとある一日の出来事です。日に日に日差しも強くなり、朝一番で撒いた水も数時間で乾いてしまいます。日中に子どもたちの遊びを邪魔しないように程よく水を撒くことがあります。邪魔はしないと言うものの、子ども達の関心は私に、結果、遊びの邪魔になることに・・・

時間が経過すると今度は私を取り囲むように子ども達がきて、私の水まきを邪魔する結末になるわけです。お互い様というわけですが、子ども達の好奇心はあふれんばかりです。

### 2歳児の好奇心から

水まきをはじめると瞬く間に近づいてくるのが2歳児クラス（りんご）の子ども達「なにしてるの」

「なんでやるの」

「これはなーに」という具合に？ ？ ？の連続、私の起こす行動のすべてに「不思議だなー」「知りたい、知りたい」の好奇心、子ども達の好奇心は道具へ普段から足洗い場へ置かれているホースにはあまり興味を示さない子ども達ですが水がでるホースには興味深々、「なんで なんで出てくるの」長いホースの中をどうやったら水がでてくるのか とにかく不思議 私と一定の距離を置いていた子ども達は徐々に接近、今度は水を触りたいと要求してくる「ちょっと、かけて」「すこし、ちょうだい」 道具への関心から

対象は水そのものへ 日常生活では飲んだり、手を洗ったり、お風呂に入ったりと2歳児なりに水を経験しているのだから・・・

どうやら私（園長）の撒く水は ち・が・うらしい、感受性の豊かさが増し、子ども達の五感が目覚めている。

「園長の撒いている水」を確かめなさいと子ども達の頭が指令をだしているらしい。

少々、話が脱線しますが、先ほど水を触りたいと要求した子ども達「すこし ちょうだい」「ちょっと かけて」との言葉のやりとり、

### すこし、ちょっと

量のさじ加減を2歳児なりにわかっていること。

### ちょうだい、かけて

自分の要求を伝える事ができるようになっていること。

そして、なによりも誰にいわれることもなく自分の思いで行動していること

子ども達との些細なやり取りのなかで子ども達の成長を実感する瞬間をいただきました。

話を戻しますが子ども達の起こす行動の源に、好奇心がある。みて、きいて、さわって、経験を積み上げる。自分の中に取り込んだ経験は、いずれ仲間 enjoyment したりする。経験主義と言ってもよいだろうか、たくさん、たくさん、経験から学んでもらいたいものである。

その後の子ども達の好奇心はさめることなく続きます。



中央のA子ちゃんスプーンを蛇口につけて、じっと 出るのを待っています。「でてこい、でてこい」 手前、B男くん ホースをもって水が出てくるのかな 「でてこないよ」



A子ちゃんに寄り添うB子ちゃん 蛇口をそーっとあけてあげました。勢いよくあけた時に濡れた経験があるので。B男くんホースを持つ手がさまになる



しばらく、みんなで知恵を出し合い、バケツに少量の水を確保 中央C子ちゃんは「少し分けて」とシャベルで水を汲んでいます。

子ども達の行動の源になる好奇心、そばにいる大人はいつも、寄り添い、気づいてあげたいものです。 (園長 廣部 信隆 19)